

みやぎの運河群連絡調整会議の設立の背景

1 東日本大震災以前

古くは、舟運を目的として江戸時代に建設が始まり、現在では治水や利水といった機能に加え、歴史、環境、景観等の魅力を有する土木遺産として、多くの方々に愛されてきました。

2 東日本大震災以降

東日本大震災では、運河群を含む沿岸地域が甚大な被害を受けました。県では、**運河群の歴史を未来へと繋ぎ、運河群を基軸とした沿岸地域の再生・復興**を基本理念とした「**貞山運河再生・復興ビジョン**」を平成25年5月に策定し、様々な主体と一体となって、復旧・復興を進めてきたところです。

3 現在

復旧・復興が概ね完了し、各運河の沿川では、様々な主体による賑わいの創出と、歴史や自然環境の保全等の活動が行われており、今後は様々な主体が広域的な連携を図ることにより、さらなる活動の拡大が期待されています。

4 これから

「貞山運河再生・復興ビジョン」に基づき、これまでは、復旧・復興事業推進のため、官主体の「貞山運河再生・復興会議」において推進しておりましたが、復旧・復興事業が完了したこれからは、さらなる地域の発展に向け、**地域主体の継続的な推進体制への橋渡しが必要であることから、新たな推進体制を構築します。**



みやぎの運河群 利活用推進会議 令和4年6月設置

学識経験者・関係行政機関による情報共有及び意見交換を通じて、運河群沿川における広域的な連携を推進するための今後の取組の方向性やあるべき姿について議論を実施

報告



みやぎの運河群 連絡調整会議 令和4年12月設置

運河群沿川で活動している民間団体等の取組紹介・意見交換により、参加者間相互で情報を共有し、それぞれの活動に生かすとともに、活動拡大に向けた連携を探る。

アドバイス



※両会議は相互に開催し連携して取組を推進します

**歴史を未来へとつなぎ、みやぎの運河群沿川の継続的な発展へ
「地域主体の継続的な推進体制」**

第1回みやぎの運河群利活用推進会議（令和4年6月20日）の学識者意見

【キーワード】 賑わい創出、自然・環境、歴史
観光、舟運、語り部・ガイド、拠点整備、新たな産業の創出、
体験学習、教育プログラム、復旧・復興プロセスの学び、教育旅行、SDGs
自然遺産、自然環境との調和、水質向上
日本・世界への発信、みやぎの運河群のブランド化、歴史遺産

みやぎの運河群連絡調整会議について ～日本一長いみやぎの運河群～

みやぎの運河群連絡調整会議の実施イメージ

【会議内容】

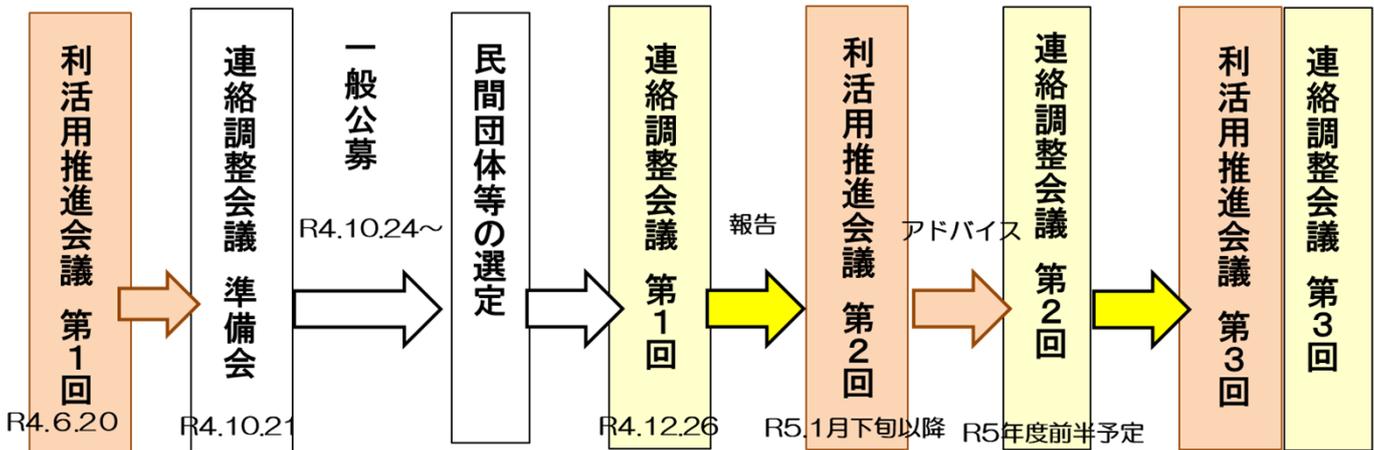
運河群沿川で活動している民間団体等の取組紹介・意見交換により、**参加者間相互で情報を共有**

【期待される効果】

- ・他団体や行政機関の取組を知り、それぞれの取組に活用。 **（知る）**
- ・同地域、地域間、類似の取組、行政機関とおし、民間団体とおし、行政機関と民間団体など、**様々な組み合わせ（マッチング）の連携による活動拡大。 （連携）**
- ・みやぎの運河群全体での連携。
- ・行政機関は、可能な支援策について検討。

まずは、各団体ができること（興味のあること）から始めていきます。

今後のスケジュール（案）



みやぎの運河群連絡調整会議構成

○行政機関

国 国土交通省東北地方整備局

仙台河川国道事務所、北上下流河川事務所 調査課、塩釜港湾・空港整備事務所

環境省 東北地方環境事務所 国立公園課

県 復興支援・伝承課、自然保護課、森林整備課、漁港復興推進室、観光政策課

文化財課、生涯学習課、河川課、港湾課、仙台土木事務所、東部土木事務所

市・町 運河沿川10市町の関係部署

石巻市、東松島市、松島町、利府町、塩竈市、七ヶ浜町、多賀城市、仙台市、名取市、岩沼市

○民間団体等

規約や会則を有するみやぎの運河群沿川で活動している団体を選定。

みやぎの運河群利活用推進会議構成

○学識経験者（5名）

座長：宮城学院大学教授 宮原育子【地域観光交流】 副座長：東北学院大学教授 平吹喜彦【環境】

元石巻専修大学特任教授 清水義春【観光】 石巻専修大学教授 庄子真岐【観光】

東北大学名誉教授 宮崎正俊【情報科学】

○行政機関（国、県、市町 の関係者）

行政機関は、みやぎの運河群連絡調整会議と同構成